



平和を愛するみなさまへ

“17回平和のつどい・のだ2023”を10月26日(水)～31日(火)市役所ホールで『戦争の記憶と記録を語り継ぐ』をテーマに戦争の実態を知り平和を願う展示会を開催します。

政府はロシアのウクライナ侵攻を利用して歴代政府の専守防衛を大幅に逸脱して軍事費(防衛費)を倍増しようとしています。それは軍事費拡大競争への突入と死の商人(軍需産業)の利益拡大に他なりません。

こんなことで良いのでしょうか。先の大戦の反省はどうなったのでしょうか。軍事費(防衛費)を福祉や教育に回したら人々の生活がどんなに豊かになるのでしょうか。貧困に苦しんでいる人々の生活費の補助に使ったらどれだけ多くの人を救うことが出来るのでしょうか。

皆さまと平和を守るために何が出来るのか、どのように行動すればよいのかを一緒に考えましょう。



2023年10月

展示テーマ

- ヒロシマ・ナガサキ原爆写真
～これが原爆の実相です～
- いわさきちひろ平和の絵
- 先の戦争時の実物
- 関綾子の戦争画・手紙
- 原爆は訴える
峠三吉(トウゲサンキチ)の詩
- 戦地からの手紙
- 戦時徴用船の記録
- 被爆した瓦、国民服
- 来場者メッセージコーナ

平和のための戦争展・のだ実行委員会
会長 日佐戸輝
連絡先 野田市岩名1-68-6
☎ 04-7129-4297(田口)

なぜジャーナリストは**標的**になったか？

「捏造記者」の汚名を晴らす闘い！

ドキュメンタリー

「標的」上映会

& 植村 隆講演

(週刊金曜日編集長、元朝日新聞記者)

11月19日(日)13:00 開場

南部梅郷公民館 講堂

あらすじ

朝日新聞記者の植村隆は一九九一年八月、元慰安婦だった韓国人女性性の証言を伝えるスクープ記事を書くその記事には「女子挺身隊の名で戦場に運ばれ、日本軍相手に売春行為を強いられた」とある。報道から二十三年後の二〇一四年記事の内容をめぐって植村を「捏造記者」とするパッシングが始まる。攻撃は次第にエスカレートし、植村が教職に就くことが内定し、でもが専断な脅迫にさらされる。パッシングの旗振り役は右翼論客の西岡力と櫻井よしこ。その背景には慰安婦問題を歴史から消し去ろうとする安倍晋三総理(当時)の思惑があった。安倍総理は慰安婦の記述を歴史教科書から削除しようとした。国家権力は都合な過去を都合のいいように書き換える。そのためにメディアと教育に圧力をかける。こうして、「歴史修正主義」に對して、多くの市民や弁護士が、反対の声をあげた。

過去の戦争の悲惨さを語り伝え、平和を守るこの大切さを訴え、多くの市民と共に改めて戦争と平和について考える場を作ることを目的とする。

(平和のための戦争展・のだ実行委員会の申し合わせ事項「目的」の項より)

第17回

平和のつどい・のだ 戦争展

戦争の記憶と記録を語り継ぐ



2023年10月26日(木)～10月31日(火)

9:30～17:00 31日 15:00迄

野田市役所 1階ふれあいギャラリー(入場無料)



(2022年展示より)

ちょっと硬派なおしゃべりカフェ
& 平和のコンサート

(みんなで唄いましょう)

10月28日(土)10:00～12:00 (展示会場前)



三上智恵監督序章作品上映会
『沖縄、再び戦場へ(仮)』

& 沖縄エイサー・朗読劇(無料)

10月28日(土)13:30～15:30

会場:中央公民館講堂

